追悼

西澤邦秀先生を偲んで

柴田　理尋
Shibata Michihiro

放射線安全管理学会初代会長を務められた西澤邦秀先生が令和5年1月9日，79歳でご逝去されました。

私が西澤先生にお会いしたのは，工学部の大学院生のとき，Ge検出器の測定用試料を作るためにアイソトープ総合センター（RIセンター）を利用するようになってからです。当時，最新の網膜判定による入退管理システムを導入されていたことを覚えております。それから，十数年後，RIセンター教員として仕事をすることになるとは当時は夢にも思いませんでした。

不勉強のため先生の研究内容は十分理解しておりませんが，放射線管理については多くのことを直接ご指導していただきました。私が工学部からRIセンターに異動した理由は，折しも大学法人化に向けて全学に百数十台あるX線発生装置の管理体制を整備したいという先生の先見の明からでした。先生は，放射線測定のできる人ということに主眼を置いていて，私はX線を使った研究をしておりませんでしたが，研究利用と安全管理の考え方は必ずしも一致しないのだから，安全管理という立場から臆せず仕事をするようにと後押ししてくださいました。管理業務の経験がほとんど無い私に，法令の趣旨を理解し，教員の意識調査及び実態調査を行い，その上で大学に相応しい管理体制を提案する，という順を追って考えて行くように指導してくださいました。実態調査の際は，お忙しい中，数か月掛けて全装置の調査にご同行してくださいました。また，RIセンター自身でもX線装置及び安全実習施設の設置，ルール作り，労基署との折衝等も経験させてくださいました。どのように体制を整備していくのかということを，まさしくOJTで指導してくださったものと思います。この経験は，その後のRIセンターでの仕事の基本になっています。

先生は，名古屋大学独自の放射線の教科書の作成，消防学校の講習，消防署を巻き込んでの避難訓練等，次々とアイデアを出されて実現されました。退職後は，NPO法人を立ち上げられて，民間会社等への教育を企画される等，放射線教育に深く携わっておられました。退職後間もなく，東日本大震災による環境汚染が重大な問題となり，長年，ヨウ素を始め汚染・被ばくの問題に取り組まれていた先生は，福島に何度も足を運び，現地の方々への支援と学会を通して有用な情報の発信を続けられました。当時，RIセンターには学内外から様々な相談が寄せられ，学外からの相談には客員教員として先生に対応していただきました。そのおかげで，私は落ち着いて学内業務に取り組むことができました。

私は運良く後任の職に就くことができましたが，先生が既に作られた枠組みの中で安心して仕事ができていることを思うと，改めて先生の存在の大きさを感じております。他機関からの相談，教科書の再版等，最近までご相談に乗っていただいていたことも含め，まだまだ教えていただかなければならなかったことがたくさんありますが，亡くなられた今となっては恥ずかしながら心細い限りです。

先生とは，RIセンターでの仕事以外に個人的にお付き合いさせていただく機会はほとんどありませんでしたが，学会等にご一緒した際には，人脈の広さには敬服しておりました。改めて申すまでもなく，先生は，放射線管理をノウハウから学術に，という目標を掲げられて放射線安全管理学会の立ち上げにご尽力されました。そのような組織作りをゼロから始められたのも先生のお人柄によるところが大きいことは言うまでもありません。

亡くなられた今，期待してくださったことに応えられていないことを反省しつつ過ごしておりますが，改めて数々のご指導に御礼を申し上げると共に，先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。最後に，先生が従四位 瑞宝小綬章を叙位叙勲されましたことをご報告いたします。

（名古屋大学アイソトープ総合センター）